

強力かつ持続的な降圧効果

厳格な降圧・・・ その重要性をうかがいました

- | | | |
|--|---|---|
| 豊岡市城南町
いがらし医院
院長 五十嵐 祐一郎 氏 | 尼崎市東園田町
中川医院
院長 中川 純一 氏 | 神戸市須磨区
道下クリニック
院長 道下 久正 氏 |
| 加古川市志方町
いちかわ内科循環器科
院長 市川 靖典 氏 | 神戸市垂水区
藤井内科クリニック
院長 藤井 芳夫 氏 | 尼崎市立花町
宮野内科医院
理事長 宮野 正雄 氏 |
| 加古川市尾上町
はりま病院
院長 大田 博之 氏 | 西宮市甲子園浦風町
ふなもとクリニック
院長 船本 全信 氏 | 高砂市米田町
矢野内科医院
院長 矢野 隆 氏 |
| 淡路市志筑
曾山医院
院長 曾山 信彦 氏 | 西宮市甲子園口
前田クリニック
院長 前田 信証 氏 | 神戸市西区
催生病院
院長 横井 峰人 氏 |
| ★ 尼崎市昭和通
長尾クリニック
院長 長尾 和宏 氏 | 神戸市須磨区
松本クリニック
院長 松本 善太郎 氏 | 南あわじ市神代国衛
中林病院
副院長 渡辺 義博 氏 |

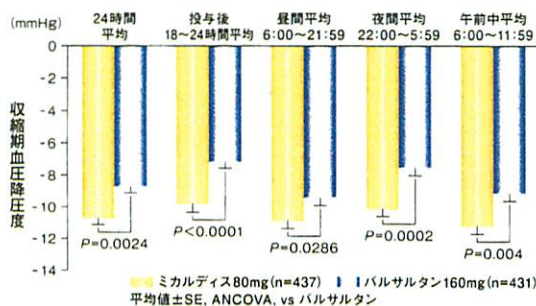
(五十音順)



コメンテーター

愛媛大学大学院
病態情報内科学教授
檜垣 實男 氏

図 ミカルディス®は強力かつ持続的な降圧効果を発揮しました (海外データ)



対象：外来拡張期血圧が95mmHg以上109mmHg以下、およびABPMによる24時間平均拡張期血圧が85mmHg以上の軽症～中等症の高血圧患者

方法：ミカルディス40mg/日、バルサルタン80mg/日(1日1回)から投与を開始し、2週間後に漸増して6週間後および8週間後のmissed dose後の血圧をABPMにて測定した。試験デザインは無作為化二重盲検試験。

安全性：忍容性は両剤とも良好で、おもな副作用は頭痛、めまい、鼻咽頭炎、易疲労、上気道感染症、喘気であった。(発現率>1%のものを記載)

Lacourcière Y, et al : Blood Press Monit 9 : 203-210, 2004

血圧が高いほど心血管イベント発症リスクは上昇し、降圧薬治療介入がそのリスクを抑制することが、数々の疫学研究や大規模臨床試験から明らかにされています。

近年、糖尿病やメタボリックシンドロームを合併するケースが増えており、降圧効果に加えて、心血管イベントや糖代謝への影響が示されているRA(レニン-アンジオテンシン)系抑制薬に注目が集まっています。

ARB(アンジオテンシンⅡタイプ1受容体拮抗薬)ミカルディス®(テルミサルタン)は、血中濃度半減期が24時間と長く、AT₁(アンジオテンシンⅡタイプ1)受容体への結合持続性にも優れていることから、長時間にわたってRA系を抑制し、強力な降圧効果を示します(図)。さらに、その分子構造から、優れた組織親和性と、選択的PPAR-γ(ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体-γ)活性化作用を有していることが報告されています。

そして、ミカルディスに利尿薬HCTZ(ヒドロクロチアジド)を組み合わせたミコンビ®配合錠では、さらに強力な降圧効果が得られるほか、安全性、薬剤費、アドヒアランスの面でも大きなメリットを有します。また、塩分過剰状態で代償的にRA系が抑制されると、ARBの降圧効果は十分に発揮されない可能性があります。HCTZがNa⁺排泄を促進することで、ARBの降圧効果が減塩と同様に発揮されると考えられます。したがって、食塩感受性高血圧が多く、十分な減塩も難しい日本人にとって、ARBとHCTZは優れた組み合わせといえます。

4,000万人にも上るわが国の高血圧患者さん1人1人に適した降圧治療を行うには、最前線で診療される先生方のお力が欠かせません。高血圧治療経験豊富な先生に、厳格な降圧の重要性や、ARBおよびARB/HCTZ配合錠の有効性についてうかがいましたので、是非とも参考にしてください。

提供：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社/アステラス製薬株式会社

強力かつ持続的な降圧効果

厳格な降圧・・・

その重要性を うかがいました



豊岡市城南町
いがらし医院
院長 五十嵐 祐一郎 氏

患者さんは、血圧を下げる理由はご理解いただけなくても、血圧を下げる必要性は認識されています。そこで、高血圧が脳卒中を引き起こすこと、脳卒中は麻痺や認知症につながることを説明し、継続的治療によってイベント発症時期を遅らせることを目標に治療を進めます。まずは降圧で、家庭血圧と診療血圧が揃えばABPMを使用しながら、ARBを第一選択薬に血圧をコントロールしていきます。ARBは臓器への保護的影響を評価して使用しており、降圧不十分な場合はCa拮抗薬を併用します。ARBの降圧効果は緩徐ですが、ミカルディスでは強力な降圧効果がみられます。今後、日本人におけるデータの蓄積に期待します。



加古川市志方町
いちかわ内科循環器科
院長 市川 靖典 氏

動脈硬化性疾患の予防のため、血圧は降圧目標値までコントロールする必要があります。患者さんへの説明では、できるだけ目線を合わせて一緒に取り組む雰囲気をつくり、患者さん自ら積極的に治療にご参加いただけるよう努めています。常に情報にアンテナを張って、時代の先端の治療を心がけており、最近では臓器保護を考慮してARBを第一選択薬とすることが増えています。持続性に優れたARBミカルディスは、ONTARGET試験が報告されており評価されています。また、高用量のミカルディスとHCTZを配合したミコンビ配合錠BPIは、強力な降圧効果を期待できます。単剤では降圧目標に到達しない患者さんは多く、有用性は高いものと考えます。



加古川市尾上町
はりま病院
院長 大田 博之 氏

高血圧は動脈硬化、そして脳梗塞や心筋梗塞の発症リスクを高めるため、症状のないうちから降圧して予防することが重要です。コンプライアンスの観点から、1日1回の投与で長時間作用する薬剤を第一選択薬としています。糖尿病合併高血圧患者さんには、臓器保護を考慮できるARBを使用しています。ARBは副作用や長期服用による効果減弱がほとんどみられない点も評価しています。ミカルディスは血中濃度半減期が長いARBで、24時間にわたって良好に血圧をコントロールします。また、PPAR-γ活性化作用を併せ持つことから、肥満やインスリン抵抗性を伴う高血圧患者さんに早期から働きかけることができる理にかなった薬剤であると考えます。



淡路市志筑
曾山医院
院長 曾山 信彦 氏

高血圧の治療では、臓器障害や合併症を予防して健康長寿につなげることが最大の意義となります。JSH2009に沿って、家庭血圧測定や生活習慣の修正を指導するとともに、リスク層別化を行います。降圧薬は長期間服用するため、エビデンスを持つ副作用の少ない薬剤が望ましく、Ca拮抗薬とARBをよく用いています。ARBはJSH2009において幅広い適応を有する忍容性に優れた薬剤です。特にミカルディスはAT₁受容体結合持続性に優れることが知られ、強力かつ持続的な降圧効果を示します。さらに、脂溶性が高く、優れた組織親和性、PPAR-γ活性化作用、胆汁排泄型といった特性も有しており、クラスエフェクトを超える作用が期待されます。



尼崎市昭和通
長尾クリニック
院長 長尾 和宏 氏

高血圧治療に対し、患者さんはむしろ低血圧でふらつくことに恐怖心を持っていますが、「高血圧ほど怖いものはない」と、その恐ろしさをご理解いただく必要があります。治療ではARBとCa拮抗薬を使用することが多く、糖尿病やメタボリックシンドローム、その予備軍の高血圧患者さんにはARBを第一選択薬としています。ARBは副作用が少なく、エビデンスが豊富な点を評価しています。ミカルディスは強力な降圧効果を示すARBでPPAR-γ活性化作用が知られます。また、ONTARGET試験では世界の評価に影響を与えました。こうした薬剤による高血圧治療が、脳卒中や心筋梗塞の発症を減らして患者さんの健康寿命を延ばすのに貢献するものと考えます。



尼崎市東園田町
中川医院
院長 中川 純一 氏

高血圧の症状は「無症状」であること。患者さんに治療の必要性を説明する際には、高血圧、糖尿病、脂質異常症をひとまとめの病気として、「こうした病気が血管を詰まらせて、脳や心臓の病気を引き起こすことがあります」と簡単な言葉でお伝えします。治療にあたっては、家庭血圧を測定してもらい、高血圧の自覚と至適血圧を認識していただきます。ARBは他の降圧薬と相性がよく、1日1回の投与で緩徐ながらしっかりと降圧します。ミカルディスは優れた降圧効果が認められるARBで、胆汁排泄率100%である点も評価しています。また、高用量のミカルディスと1/2量のHCTZを配合したミコンビ配合錠BPは、強力な降圧効果を期待することができます。



神戸市垂水区
藤井内科クリニック
院長 藤井 芳夫 氏

降圧薬は一度飲み始めると飲み続けたいといけないうえ、降圧薬を飲まないと言う患者さんも多いのですが、ただ単に血圧を下げるのではなく、脳卒中や心筋梗塞のリスクを下げるのが目的であると説明して納得しています。第一選択薬はARBです。高い降圧効果に加え、臓器保護を考慮できる点を評価しています。腎保護を考慮する際は、ミカルディスを使用しています。ミカルディスはPPAR-γ活性化作用も知られています。わが国では食生活が豊かになり、中年の患者さんの多くがメタボリックシンドロームという状況で、降圧効果とPPAR-γ活性化作用を併せ持つことは注目に値します。また、ARB/HCTZ配合錠は1錠で高い降圧効果を示すことから、治療継続の面でもメリットがあると思います。